



採用イベントの意図を説明し、学生に感想を聞く琉球光和の秦一社長＝4月12日、那覇ふ頭の客船内

新卒最前線

解禁日変更の波紋

● 中 ●

県内企業による学生の「困い込み」が激化している。新卒採用スケジュールの短期化や人手不足を背景

企業の「困い込み」激化

企業インターンシップだが「ことしは2月のインターンシップ受け入れが多い」。そう指摘するのはラジカル沖縄企画マーケティング部兼総務部業務管理課の安富祖聡次長だ。

8月に選考活動解禁となり、採用活動時期と重なったことが背景にあるが、なぜ2月なのか。安富祖次長は「学生にとっても早めに人事担当と接触でき、双方にメリットがあ

る」とした上で「企業は広報活動解禁の3月直前に実施し、学生をそのまま困い込みたい考えだ」と分析する。

県内の各大学では企業による個別説明会の開催も急増している。琉球大学では2014年度、前年度比89・7%増の計74社(延べ数)が個別

を交えながら1時間にわたって語った。熱心に耳を傾けていた同大4年の宮平美南さん(21)は「合同説明会と違い、深く話が聞けるところがいい」と話した。

「皆さんはこの船にとらわれてい

説明会を実施。15年4月は月別では過去2年で最多となる17社(延べ数)が説明会を開いた。就職センタ

1に設置された学生向け掲示板は、県内外企業のチラシで常時埋め尽くされている状態だ。

4月23日、琉球大学で開かれた沖縄ヤクルトの説明会では、若手社員が会社や仕事内容にとどまらず、働く厳しさや就活について自身の体験

4月12日、那覇ふ頭に停泊する客船には約300人の学生がひしめいていた。医療機器を取り扱う琉球光和(秦一社長)が企画した採用イベント「密室客船へ、ようこそ」の参加者だ。船内のあちこちに張られた

暗号をチームで協力し、読み解いていく。コミュニケーション力や問題

解決力、体力、ひらめき、正解を導くには仕事で求められるさまざまな

な能力が必要だ。正解した4年生は採用試験の1次選考が免除され、それ以外の正解者はインターンシップを体験できる。

同様のイベントは11年から始めた。「就活で初めて社会を知るのではなく、早くから企業に興味を持ち、視野を広げてほしい」と秦社長は狙いを語る。

参加した学生らは「楽しそうに興味を持った」「普通の会社と違う」と参加動機を語る。独自の採用活動が目ざされ、人気企業ランキングではトップ10入りの常連となった。

イベント終了後、学生をねぎらいつつ、秦社長は語った。「銀行は知っているがATMをつくっている会社はたぶん分からないだろう。社会には見えていない会社以外にたくさん

の企業が消費活動を支えている。では、病院を支えているのはどこか？

それが琉球光和です」

それが琉球光和です」

それが琉球光和です」

それが琉球光和です」

それが琉球光和です」

それが琉球光和です」

それが琉球光和です」

2015年5月5日(火)
琉球新報 朝刊

早く、密に学生と接触へ

参加した学生らは「楽しそうに興味を持った」「普通の会社と違う」と参加動機を語る。独自の採用活動が目ざされ、人気企業ランキングではトップ10入りの常連となった。

(長嶺真輝、桑原晶子)